

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 次世代腫瘍医学コース（大学院正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、歯科医師、薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 医学専攻博士課程 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院正規課程で放射線治療、核医学治療、緩和医療、病理診断等を学び、学位取得後は地域の核となる施設に定着して、緩和的放射線治療、痛みの治療・ケア、核医学治療、病理診断などがん医療の現場を担う人材。医師であれば放射線治療医、病理診断医、緩和医療専門医、総合診療医等。 ・大学院正規課程で体系的な臨床腫瘍学を学び、学位取得後は腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際的知識にも対応できる医師、薬剤師。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目24単位、選択科目6単位以上、計30単位以上を履修する。 ・担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目：次世代腫瘍医学特論(2単位)、先端医学特論I(2単位)、セミナーA(6単位)、セミナーB(6単位)、実習(8単位) ※ セミナーA、B、実習は放射線腫瘍学、病理診断学、ペインクリニック、臨床腫瘍学等のがん治療を学び研究する講座が開講する科目を選択履修する ・選択科目：先端基礎医学特論(2単位) 病理診断学、緩和医療学、腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学ほか 3科目(6単位)以上 ※ がん関連学際領域の科目は名古屋大と連携する | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 放射線治療専門医(日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会)、認定病理専門医(日本病理学会)、ペインクリニック専門医(ペインクリニック学会)、がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 (新規性・独創性等) | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施していた先端基礎医学特論を、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、放射線腫瘍学、病理診断学及び緩和医療学、がん関連学際領域に関する講義を加えるなど大幅に見直し新たに次世代腫瘍医学特論として発展的に改変する。研究能力を備えた医療者を養成する。 ・本事業で構築する大学間連携体制を活用して、名古屋大が開講する腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域の講義を受講する。 ・核医学治療はこれまで系統だてて学修することは困難であったが、本コースによって病棟実習を含めて統合的に学ぶことができる。 ・令和4年4月に新設された次世代創造医工情報教育センターが行うアントレプレナーシップに関する講義を受講し、がん医療に伴う社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップの素養を有する人材を養成する。 ・講義をオンライン化しオンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。 | | | | | | |
| 指導体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義はホスト国の状況に合わせて対面とオンラインのハイブリッドで実施する。 ・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるホスト国講義を行う。 ・本事業に特化した履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 放射線治療、病理診断、核医学治療、緩和医療、終末期医療の実践及び教育に従事する人材として、地域のがん診療連携拠点病院、放射線治療を行う施設、病理診断部門での勤務を想定している。これらの人材が地域に定着するように、定期的な研究会、人事交流を実施している。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 35 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学コースから毎年度、放射線治療、麻酔、病理診断の大学院志望者を3名、学際領域の大学院志望者を4名と見込み、受入れ目標人数を35人と設定。 | | | | | | |